

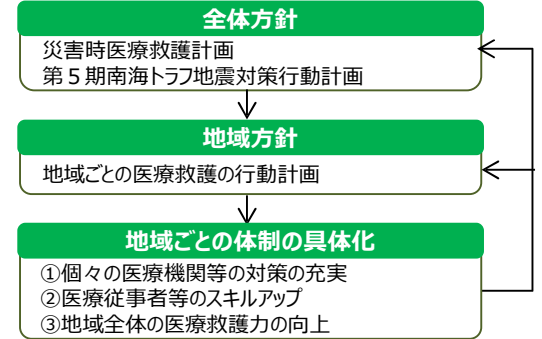
対策の方向性

道路網の寸断等により後方搬送ができない状況が想定される中、前方となる、より負傷者に近い場所での医療救護活動を可能な限り強化する。

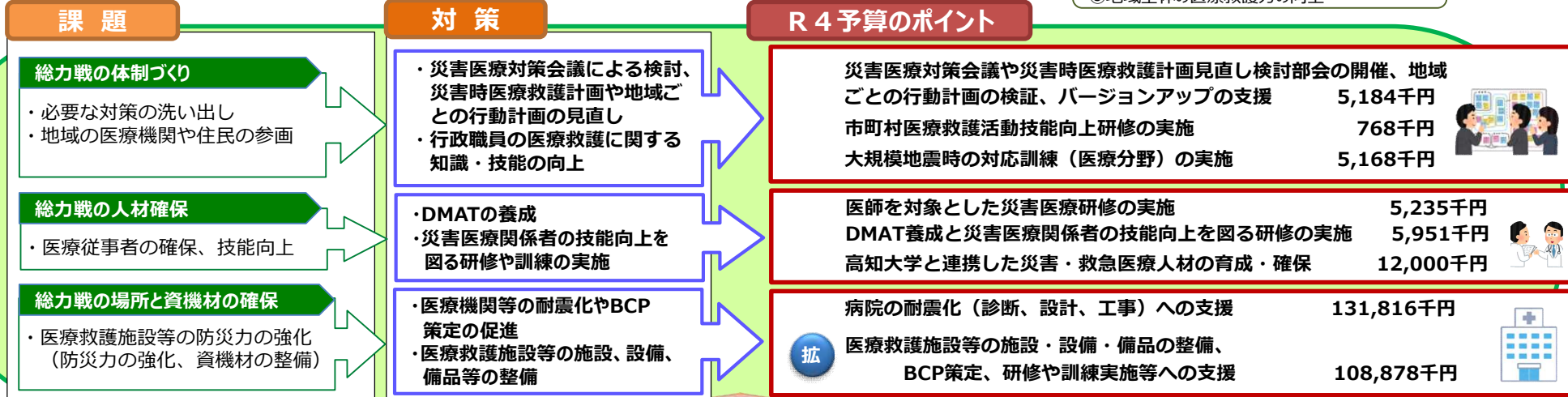
～前方展開型の医療救護活動～

- 地域の医療施設や医療従事者、さらには住民も参画した「総力戦」の体制づくりと必要な資機材の導入
- 外部支援の到着や搬送機能の回復まで、地域に残存する医療資源で耐える体制の構築
〔南海トラフ地震では、いわゆる「瓦礫の下の医療」の展開までは困難であり、地域の医療機関に精一杯力を発揮してもらう〕

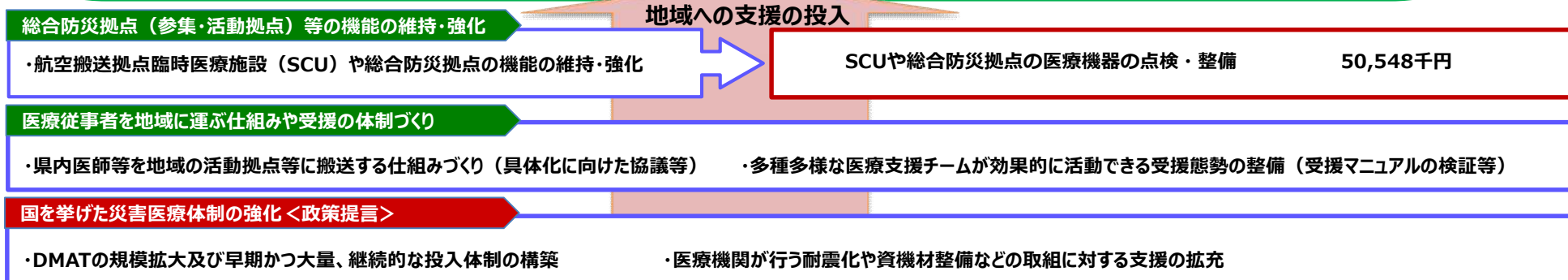
実現に向けたステップ



地域ごとの医療救護の体制づくり



地域をバックアップする



困難課題地域や震災後への対応

- ・長期浸水対策
- ・地域医療の復旧・復興に向けた体制の検討
- ・県と市町村等との連携による対策の検討